

10トダンプ3台分

ダンプトレーラーを九州初導入

加藤産業株式会社

深い荷台と軽い車体で
効率性・安全性を確保

加藤産業株式会社（加藤博文社長）は、1台で一般的な10トダンプ3台分以上の積載量があるダンプトレーラーを九州で初めて導入。逼迫するダンプトラックの需要に対応することを旨し、1月から運行を開始した。

導入したのは、ドイツ・ランゲンドルフ社製のベッセル（荷台）

を搭載した株式会社・愛媛県）オリジナル設計のダンプトレーラーLK-28α。荷台は、普通鋼の4〜5倍の強度、8倍の耐摩耗性を持つスウェーデンスチール社製耐摩耗鋼板を採用。根太が不要かつ、わずか4枚の鋼板で船型に溶接したシンプルな構造により、荷台を通常のダンプよ

り30%以上深く軽くすることを

実現（最大積重量28ト）。低重心による走行の

安定性・安全性も可能にした。

さらに、荷台を傾けるシリンド

ーを荷台最前部に装着すること

で、小さな力でリフトアップが

可能になり、機器の軽量化や横揺れ・

転倒の危険性も低減している。

加藤産業では、2015年5月に上陣の10トダンプを導入。ラン

船型荷台とシリンド
ーの位置が特徴的



る。「価格は通常の10トダンプの約2倍だが、積載量は3倍。弊社だけでなく、お客様にとっても、効率性・コスト面でメリットがあると判断した」（加藤社長）。

同社では、今回の導入を契機に運輸部で8台保有していたダンプを1台減車したものの、全体の積載量は増加。これまで骨材の運搬に使っていた10トダンプを工事現場用に回すなどして、逼迫している需要に対応していく考えだ。